

CAMPUS 八戸学院

vol.72

さよならセレモニー「感謝の集い」を開催
全国への挑戦2024

 八戸学院光星高等学校

第19回定期演奏会



八戸学院大学短期大学部幼児保育学科旧校舎 さよならセレモニー「感謝の集い」を開催 [10/19]



開設から53年間に渡り多くの学生が使用してきた幼児保育学科旧校舎（老朽化により解体）



思い出を語る同窓生



関係者の前で挨拶をする杉山学長



在学生による「感謝の演奏」

預かり保育を利用していた八戸学院幼稚園の年少組から年長組の園児が、八戸学院大学短期大学部の学園祭(10/19)に遊びに行ってきました。向かうバスの中で、「どんなことしてるのかな〜?」とすでにワクワクしている子どもたち。到着すると、射的やボールを蹴って遊ぶ当て、パペット人形作りなど、短大のお姉さん・お兄さんに教えてもらいながらたくさん遊びました。

その後、解体される予定の4号館に移動して、3階の音楽室の壁に記念のお絵描きをしました。「今日は特別だよ〜」と伝え、「やっー」と大喜びで、普段は描くことのできない広い壁でペンをぐるぐる動かしたり、好きなキャラクターを描いたり、サインを書き込んだり。「高い所にも描きた〜い!」とぐーっと背伸びをして描く子もいて、リトミックでお世話になった校舎に『ありがとう』の気持ちいっぱい、特別なお絵描きを楽しんだ子どもたちでした。



CONTENTS

- 3 八戸学院大学短期大学部幼児保育学科旧校舎
さよならセレモニー「感謝の集い」を開催
- 4 全国への挑戦 2024
- 6 研究室訪問
介護のスペシャリストから、福祉のゼネラリストへ
- 8 八戸学院 TOPICS
学園祭2024
- 10 八戸学院 TOPICS
- 14 ステラが行く
- 15 ステラ・フォーカス
- 16 光星学院イノベーションプログラム(基金)
令和5年度 寄付受理ご報告
- 18 幼児教育の今、あれこれ…

CAMPUS 八戸学院

vol.72



表紙

SG GROUPホールはちのへ(八戸市公会堂)で開催した八戸学院光星高等学校吹奏楽部の第19回定期演奏会の様子。部員たちは日々練習に励み、その成果を披露しました。(12ページに関連記事)

建学の精神 「神を敬し、人を愛する」

カトリックの精神に則る道徳教育を施し、高尚なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することをもって目的とする。(寄附行為 第3条)

野西高 産業教育功労者表彰 [11/12]

工業などの産業教育に関して顕著な功労があった教職員を表彰する産業教育功労者に、本校教諭の簾谷寿逸先生が選ばれ、ホテル青森で行われた授賞式では、産業教育振興会より表彰状が贈られました。

この度は産業教育功労者表彰を賜り、感激に堪えません。受賞のお知らせをいただいた時は複雑な気持ちでした。この栄誉は私一人の力ではなく、上司や諸先輩方のご指導、支えてくださった同僚の皆様のお陰とっております。そして、これまで関わってきた全ての生徒に心から感謝申し上げます。本校に赴任した際、工業科の先生方から、基本からしっかりご指導いただき、力強い励ましの言葉をいただいたことは今でも忘れません。

これからも皆様のお力添えを頂きながら、一生懸命努力するとともに、気持ちを引き締めて、精進して参ります。今後ともご指導賜りたく、宜しく願い申し上げます。



簾谷 寿逸

- 八戸学院大学
TEL 0178-25-2711
- 八戸学院大学短期大学部
TEL 0178-25-4411
- 八戸学院地域連携研究センター
TEL 0178-25-2789
- 八戸学院図書館
TEL 0178-30-1695
- 八戸学院光星高等学校
TEL 0178-33-4151
- 八戸学院野辺地西高等学校
TEL 0175-64-4166
- 八戸学院幼稚園
TEL 0178-34-5765
- 八戸学院聖アンナ幼稚園
TEL 0178-45-3670
- 八戸学院第二ののめ幼稚園
TEL 0178-25-2488

<https://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>

男子バスケットボール部

◆SoftBankウインターカップ2024
令和6年度第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会
(SoftBankウインターカップ2024 令和6年度第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会青森県予選会優勝)
4年連続7回目の出場が決定しました。目標のメインコート(全国ベスト8)目指して頑張ります。



女子バスケットボール部

◆SoftBankウインターカップ2024
令和6年度第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会
(SoftBankウインターカップ2024 令和6年度第77回全国高等学校バスケットボール選手権大会青森県予選会優勝)
2年ぶり4回目の出場が決定しました。初戦突破で全国2勝目を目指して頑張ります。



女子サッカー部

◆第33回全日本高等学校女子サッカー選手権大会
(第33回全日本高等学校女子サッカー選手権大会青森県大会優勝)
今年初めての全国大会出場です。初戦突破目指して頑張ります。



アイスホッケー部

◆第74回全国高等学校アイスホッケー競技選手権大会
(第77回青森県高等学校スケート競技選手権大会アイスホッケー競技3位)
青森県立八戸高等学校との合同チームで2年目のシーズンとなりました。今シーズンも少人数体制ではありますが、最後まで諦めず自分達らしいプレーをしていきたいと思ひます。



全国への挑戦 2024

応援よろしくお願ひします!!!

卓球部

◆天皇杯・皇后杯 2025年全日本卓球選手権
(中里 姫乃)
県予選では1位通過で本戦への出場が決まりました。1戦でも多く勝てるように頑張ります。



フィギュアスケート部

◆第74回全国高等学校フィギュアスケート競技選手権大会
(田名部 飛至也・藤原 愛菜)
光星高校に入学して、初めての全国大会です。緊張すると思いますが、ミスの少ない演技をして自己ベストを出せるように頑張ります。



スピードスケート部

◆第74回全国高等学校スピードスケート競技選手権大会
(上田 千聖・長根 結芽)
各種全国大会上位入賞及びベスト更新を目標に、厳しい練習に励んで来ました。インターハイでは2つの目標を達成できるように頑張ります。



ゴルフ部

◆2024年度全国高等学校ゴルフ選手権春季大会出場選手
男子 塩谷 凜太郎 斎藤 優空
女子 佐藤 心々 梅本 りさ 小山 萌々香
入賞目指して頑張ります。



男子ラグビー部

◆第61回全国大学ラグビーフットボール選手権大会出場
(第3回北日本大学ラグビーフットボール交流戦優勝)
今回の東北リーグや北日本大学交流戦で相手の大学に対して圧倒して勝ち切る事ができたのは、冬から行って来た体づくりや走り込みなど、厳しい練習に取り組んだからだと思っています。全国大会では目標の1勝を果たすために自分たちの強みを活かし、これまで行って来たことを信じ抜いて勝ちにいきたくと思ひます。
主将 清水 涼平



女子サッカー部

◆第33回全日本大学女子サッカー選手権大会出場
(東北地域大学女子サッカーリーグ第一代表)
チームの大きな目標は、インカレで一回戦突破することです。今年は、東北の1位代表として全国大会に挑むことができます。自分たちがチャレンジャーであることを忘れず、自分たちのサッカーで一回戦突破を目指します。そして、監督や家族、チームに携わってくださった方々に感謝を忘れず、恩返しができるように目の前の試合に向けて頑張っていきたいと思ひます。
主将 及川 桃



男子サッカー部

◆2024年度第73回全日本大学サッカー選手権大会出場
(2024年度東北大学サッカーリーグ1部優勝)
この度、18年ぶり二度目の東北大学サッカーリーグ優勝を果たすことができました。今回の優勝は、日頃よりご支援・ご声援をくださる皆様のおかげで日々サッカーに打ち込むことができた結果です。長い年月を経て再び頂点に立つことができたことは、チームにとってとても大きな喜びです。これから全国大会に挑戦していく中、1勝でも多くの勝利を重ねることで、少しでも恩返しができるようチーム一丸となって全力を尽くして参ります。
主将 菅野 聖斗



男子バスケットボール部

◆第76回全日本大学バスケットボール選手権大会出場
(第25回東北大学リーグ兼東北大学選手権大会3位)
創部初のインカレ出場を決めたことを大変嬉しく思ひます。初出場ということで緊張もありますが、同時に楽しみという気持ちも湧いています。リーグ戦で出た課題をチームとしても個人としても克服し、インカレ初勝利を目標に東北代表として精一杯頑張りたいと思ひます。
キャプテン 坂本 蓮



スケート部アイスホッケー部門

◆第97回日本学生氷上競技選手権大会 男子ファーストディビジョン出場
(第97回日本学生氷上競技選手権大会東北地区予選優勝)
初めに東北大会優勝に際し、アイスホッケー部門に関わるすべての方へ感謝申し上げます。ありがとうございました。今年度の目標はインカレベスト8です。現在インカレへ向けて細かい調整に入っています。地元開催であり期待値も高まりますが、まずはアイスホッケーを楽しむこと、そして本学のために全身全霊で大会へ臨むことを誓います。
主将 林 佑翔



研究室訪問

介護のスペシャリストから、福祉のゼネラリストへ



八戸学院大学短期大学部
介護福祉学科
准教授 鳴海 孝彦

東北福祉大学社会福祉学部卒業

【主な職歴】
ちびき病院(東北町)
医療ソーシャルワーカー
社会福祉法人青森県社会福祉協議会
事務局次長
医療法人藤仁会
介護老人保健施設えぼし副施設長

【主な社会活動】
青森県災害福祉コーディネーター
中部上北事務組合
介護認定審査会審査委員
保護司

1. これまでの活動

本学にお世話になってから早いもので4年目となりました。これまで、医療機関においてMSW(医療ソーシャルワーカー)として目の前の患者さん、その家族へのケースワークに悩み、社会福祉協議会ではコミュニティワークとソーシャルワークの本質を見出すことができず、その答えを探すべく大学の門をたたき、現在に至っています。ケースワークにおいては、疾病やケガにより生活基盤が揺らいだ方の尊厳を重視した支援の難しさに直面してきました。制度や仕組みがあってもその恩恵を受けることができない方、住み慣れた地域に必要な支援がなく生活の場を自分で選べない方、疾病が原因で家族間に軋轢が生じてしまい思い通りの生活が叶わない方など、専門職として理想とする療養環境を見出せない無力感に悩んだこともあります。その度、同じ職種、あるいは同じ学びを得てきた仲間助けられ、微力ながら地域医療の現場で活動することができました。コミュニティワークでは「奉仕」ということ

よりも「ボランティア」という言葉の重みに触れ、地域支援者の活動は、支援が必要な方へサービスを提供するという一方向的なものではなく、活動した側も、自身の変容に期待しながら、「自己成長」「自己学習」などの恩恵を受けるべきだという結論を現在は見出すことができています。福祉施設の地域開放が言われて久しくなりますが、福祉現場におけるリーダーとなり得る学生の皆さんには、そういったことも含めた、「ボランティアコーディネーション」も伝えていきたいと考えています。

2. バイステックの7原則を大切に思う

福祉援助者の基本的な視点として、私はバイステック(Bi-Pr. Based)の7原則を大事にしています。介護の現場では、受容「自己決定」という部分に重きを置いて、業務を遂行することになります。真の専門職とは、目の前にいる支援対象者の「思い」を受け止めながらも、その「思い」が実現可能なことなのかを問い続け、家族を含む周囲の環境を分

3. 災害支援 (ボランティアコーディネーション)に思う

私の研究テーマの一つに災害福祉支援があります。2004年の新潟県中越地震での支援活動以来、毎年のように起こる豪雨水害や地震などの自然災害の支援活動現場を伺わせていただき、現場で被災から立ち上がるうとする方、途方に暮れる方を何とか支援しようとしている方々の活動を見聞きさせていただいてきました。この20年間において、災害支援においては災害医療(Disaster Medical Assistance Team)と並び、災害ボランティアの目覚ましい発展がなされ、今では誰もが認知している重要な資源となっ

ています。その起源は阪神淡路大震災において一般化され、その流れもあり特定活動非営利促進法も整備されたと記憶をしています。2004年から災害ボランティア活動におけるコーディネーション活動に携わることで、「何かしたい」という、一人ひとりの発意を形にする仕組みづくりや、置かれている状況を俯瞰できるコーディネーターの育成に、NPO関係者、研究者、実践者など、全国各地の仲間と取り組んできました。時には利那的に、時には倫理的に物事を整理して結果を見出す、その経験も私が福祉に関わり続けている要因ともなっています。

4. これからの災害福祉支援活動

日本は世界に類を見ない災害大国です。自宅が被害にあわれ、余儀なく指定避難所や福祉避難所、一部倒壊した自宅での長期化する避難生活を送る方々のことについて、被災経験のない私は被災するということに思いを巡らせることはできません。その方々の苦しみを本当に理解できているとは塵とも思ったことはありません。しかしながら、災害が起きるたびに避難所から体調不良を訴え救急搬送される方々を目の当たりにする度に、生活支援を生業とする者として何かできないものかと考えてきました。東日本大震災当時の福祉支援は職能団体や種別協と呼ばれる多様な団体が、独自で支援場所を設定し、所属する福祉専門職を派遣する流れになっていましたが、支援者側が報道などの情報を頼りに支援場所に赴くことが多かったことから、この方法は少なからず「支援過疎」という言葉を生み出すことにつながったとも整理できます。このような中、平成25年度に福祉医療機構が

福祉支援に関する研究活動を都道府県に呼び掛け、平成30年5月には厚生労働省が「災害時の福祉支援体制の整備について」を発出し、各都道府県への災害福祉支援チーム員(Disaster Welfare Assistance Team)以下DWAATという)の組成を呼びかけ、災害支援における福祉の10の役割(図1)を明示しています。このことは、これまでの支援する側のロジックではなく、被災地側(市町村)の要請に基づいた被災者の二次被害防止体制の整備を都道府県が行うことを意味することとなり、災害医療と並んで、被災地域を管轄する保健所単位での福祉支援を可能とするものとなりました。「災害時の福祉支援体制の整備にかかる研修体系に関する調査研究(八戸学院大学短期大学部研究紀要第56巻)では、調査時点で45都道府県においてDWAATが組成され、今年1月の能登半島地震においては47都道府県に対して能登地方でのDWAAT活動の要請がなされています。

災害時の福祉支援体制の整備に向けたガイドライン(厚労省・平成30年5月31日)

- 【チームの活動内容】
- ①福祉避難所等への誘導
- ②災害時要配慮者へのアセスメント
- ③日常生活上の支援
- ④相談支援
- ⑤一般避難所内の環境整備
- ⑥本部、都道府県との連絡調整、状況等の報告
- ⑦後続のチームへの引継ぎ
- ⑧被災市区町村や避難所管理者との連携
- ⑨他職種との連携
- ⑩被災地域の社会福祉施設等との連携

(図1)災害時の福祉支援体制の整備に向けたガイドライン(厚生労働省)

5. 2024年能登半島地震での活動

標記災害において、私は青森県災害福祉コーディネーターとして、石川県志賀町へ派遣された青森県DWAATへ同行し、活動についての検証を行いました。DWAATは、介護福祉士、社会福祉士、保育士などの多職種チームで構成され、被災された個人、家族の生活を支援することが役割として設定されています。被災された高齢、障がい、児童などの支援対象者が、安定的に避難生活を送ることができるよう、現状に課題があればその課題の原因を分析し、解決に向けた支援策を検討、計画化を図り、支援活動を展開する、このような活動が求められています。青森県DWAATは、発災から2週間後の七尾市と3月中旬の志賀町にて専門職としての科学的根拠、生活者としての視点を持ちながら活動を展開してきました。能登半島は高齢化の進行、集落の点在など、二つの半島を抱える青森県の現状に酷似しています。能登半島での支援活動を「我がこと」と捉え、福祉と医療の専門職者を養成する本学は、災害ケースマネジメントも含めた多様なアプローチが可能となる人材を育成していかなければならないと考えています。

6. 福祉のゼネラリストとして

今、福祉は個別支援の重要さと共に、生活保護法や生活困窮者自立支援法に見られるように、世帯支援のさらなる強化も求められています。個人の支援だけでは解決できない重層的な課題を抱える世帯にも関わり続けることができる「福祉のゼネラリスト」を輩出したいと考え、あらゆる社会課題に興味を持てるよう、講義やゼミ活動に取り組んでいます。



令和6年3月 志賀町役場前で、滋賀県、鳥取県、青森県のDWAATと共に(後列右から2番目が本人)



令和6年1月 御嶽コミュニティセンター(七尾市)内での避難スペースでの聞き取り

- ① 学生による模擬店
- ② レクリエーションコーナー
(介護福祉学科)
- ③ 健康チェック
(人間健康学科)
- ④ 東北初キャッシュレス文化祭
- ⑤ 自衛隊ブース
- ⑥ 模擬店が並ぶ
メインストリート



はちがく フェス

10/19(土)▶10/20(日)

光星祭 野西高祭

10/19(土)
▶10/20(日)

- ① 模擬店(中庭)
- ② 三沢エドブレン高校による合唱
- ③ 保育福祉科の展示
- ④ ロータークラブ募金

10/25(金)
▶10/26(土)

- ① 校庭で豚汁パーティー
- ② PTAによる模擬店
- ③ 総合学科展
- ④ カラオケ大会



短大 幼稚園 星の子シアター「ノアの方舟2024」を開催 [11/8]

八戸学院大学短期大学部幼児保育学科と八戸学院の3つの幼稚園は、日頃から連携してリトミックの活動を行っています。その成果として、学生と園児がともにひとつの舞台「ノアの方舟」を創りあげ、SG GROUP はちのへ(八戸市公会堂)にて発表しました。

オープニングのハンドベルでは緊張していた園児でしたが、動物になって元気よくポーズを決めたり嵐を表現したりし、最後は学生と一緒に素敵な歌声を響かせていました。学生は舞台上がるだけでなく、演奏や照明などの仕事も務め、貴重な経験に胸を熱くした一日でした。



“虹のむこうに”の合唱で元気に「おーい！」



オープニングでハンドベルを演奏



観察して真似した陸ガメ



羊も方舟に乗り込みます



黒猫が元気に登場



幼児保育学科の1・2年生全員が参加

大学 八戸商工会議所と連携して講座を実施 [9/11]

八戸商工会議所と連携し、地元企業の人事担当者を招いて講座を開きました。この講座は学生に地元企業への関心を高めてもらうこと、また、地元定着や人材確保へ繋げることを目的としており、地域経営学科の3年生90名が受講しました。各企業のブースでは、人事担当者による仕事内容や求める人材、就職活動における心構えなどの説明に、参加した学生は理解を深めていました。



デリーー東北新聞社提供

大学 地域医療セミナーを開催 [10/31]



地域の健康促進の支援を目的に行われている「地域医療セミナー」が開催され、健康医療学部(人間健康学科・看護学科)の学生をはじめ300人が受講しました。

今回のセミナーは「『むつ下北医療とへき地医療』の現状と課題」と題し、むつ市の山本知也市長が講師を務めました。山本市長は、来春むつ市に開設される本学看護学科むつ下北キャンパスに触れながら、地域医療やへき地医療の現状について説明し、「看護師を志望した熱い思いを次の世代にもつなげてほしい。」と語りました。

また、参加した学生に対し、「世の中を変えるのは若い力。一緒に青森を元気にしていきましょう。」とエールを送りました。

短大 赤い羽根共同募金を実施しました [10/5]

八戸ショッピングセンターラピアで、介護福祉学科の2年生15名が赤い羽根共同募金の募金活動を行いました。当日は、令和6年度共同募金運動における共通助成テーマ「つながりをたやさない社会づくり～あなたは一人じゃない～」のもと、八戸工業大学の皆さんと共に募金への呼びかけを行い、皆さんからたくさんの善意と共に多くの励ましの言葉もいただきました。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。



短大 介護の魅力を発信！介護レンジャー参上!! [10/22]



介護福祉の仕事の魅力をわかりやすく伝えるため、介護福祉学科の2年生5名が「介護レンジャー」を結成しました。

洋野町で行われた「認知症予防普及啓発講演会」に初登場した介護レンジャーは、本学科の学生30名と共に認知症予防体操や認知症に関するクイズを行うなど、会場を盛り上げました。イベントを終えた介護レンジャー・レッドの工藤悠暉(2年)さんは「とても緊張した。今後も介護の魅力を広めたい」と笑顔で話しました。

介護レンジャーの活動はさらに続き、岩泉町立岩泉小学校4年生の認知症サポーター養成講座や美保野地区「やまばとの会」の研修会に参上して、介護の魅力を発信しています。

野西高 大島 杏子さん(体操競技)による特別授業を開講 [9/18]

日本女子最多記録である通算8度の世界選手権出場をはじめ、アテネや北京オリンピックでも活躍された大島杏子さんをお招きして特別授業を実施しました。

授業では、大島さんがオリンピックに出場した際のエピソードをお話いただき、トップアスリートがどのように競技と向き合い、結果を出すためにどのような努力をしているのかを学ぶことができました。

授業の後は、実際にマット運動を指導していただき、「できないではなく、まずやってみる」ことの大切さを教えていただきました。

3年 福澤 颯斗(教養進学系列スポーツ進学系)

私はこれまで体操競技について詳しくありませんでしたが、大島先生の授業を受け、体操競技に興味が出ました。また、大島先生がオリンピック日本代表に選出されてから、怪我と向き合いつつ過酷な練習の日々を過ごしオリンピック本番に臨んでいた体験を聞いて、とてつもないプレッシャーの中で競技に取り組んでいたことを知りました。私もこれから部活動により真摯に取り組んでいきたいと思っています。



野西高 2年次インターンシップを実施 [9/2・3]

2年生を対象にインターンシップ(就業体験実習)を実施しました。今年度も野辺地町の様々な企業・団体にご協力いただき、生徒自身の興味・関心に合わせた就業場所に受け入れをお願いしました。

普段、何気なく利用しているスーパーマーケットやドラッグストア、飲食店などで就業体験を行った生徒からは、利用者のために様々な工夫がされていることを知り、企業努力に感動したなどの感想が出ており、今後の進路選択において貴重な体験となりました。



野西高 第103回全国高校サッカー選手権大会青森県予選決勝 [11/4]



悲願の選手権大会青森県予選優勝と全国出場を目指し、8年連続同一カードとなる青森山田高等学校に挑みました。決勝までの3試合で、35得点・無失点と圧倒的な成績を残し、歴史が変わる瞬間を予感させる決勝戦となりました。

前半にFWの成田涼雅くんが先制し、全校応援で駆け付けたスタンドの生徒たちは手を取り合って喜び、全力で応援しました。

結果は惜しくも1対3に終わりましたが、最後まであきらめことなく全力でプレーし、試合終了のホイッスルと同時に倒れ込む選手の姿は、この試合に3年間の全てをかけ、想像もできないくらい厳しい練習に取り組んできたことを何かせ、応援する全ての人に感動を与えてくれました。

野西高 2・3年生向け金融教育を実施 [10/18]

青い森信用金庫およびマネックス証券株式会社の方々を講師としてお招きし、2・3年生を対象に金融教育を実施しました。青い森信用金庫地域支援室の村本尚彦さんからは、ライフプランとお金をテーマにお話いただき、奨学金やローン、クレジットカードなど、これから必要になることの多い金融サービスの仕組みについて学ぶことができました。マネックス証券八戸コンタクトセンターの中村瞳さんからは、資産運用についてお話いただきました。投資をすることのメリット・デメリットを理解し、将来に備えて正しい金融知識を身につけることの大切さを学びました。

3年 芋田 道生(教養進学系列教養進学系)

最近、資産運用に興味があり、良いタイミングで受講することができました。株以外にも様々な金融商品の知識を身に付け、資産を分散することの大切さを学びました。大学に進学し、さらに深い知識を身に付けたいと考えています。



光星高 令和6年度の光星(キラ)リンピック [10/10]

YSアリーナと八戸市体育館において、スポーツ大会「光星(キラ)リンピック」を開催しました。

今年度は昨年度より競技種目を増やし、YSアリーナではバレーボールやサッカーのほか、綱引きと玉入れを行いました。競技に参加した生徒たちは真剣にプレーをし、その他の生徒は大歓声で自分のクラスメイトを応援していました。また、eスポーツは、マリオカート・大乱闘スマッシュブラザーズを取り入れ、マイコンローラーを持参した猛者たちが激闘を繰り広げました。また、体育館ではバスケットボールが行われ、男子3年F組が3連覇という快挙を成し遂げました。

他にも、YSアリーナではスケートの自由滑走があり、初心者も上級者も楽しみながらスケートングを行っていました。来年度も競技内容を考慮しながら、生徒の思い出に残るスポーツ大会にしていきたいと思っています。



光星高 第19回定期演奏会 [11/4]

今年度の第19回定期演奏会は「SG GROUPホールはちのへ(八戸市公会堂)」にて開催いたしました。開催にあたりまして、ご協力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、今回の定期演奏会では新たな企画として、開場前に並ばれているお客様を退屈させないためにロビーコンサートを行い、開演前にお楽しみいただくことができました。そして、今年度は昨年度を大きく上回る来場者数となり、日頃の私たちの活動を多くの方々が見に・聴きにきてくださいましたことに、本当に感謝いたしております。

第1部のプログラムは、今年度の吹奏楽コンクール八戸地区大会で金賞をいただいた「ローマの祭り」や「トランペット吹きの休日」などを演奏いたしました。本校吹奏楽部は今年度、大編成の部門に出場した年になりましたが、この難曲を部員たちは一丸となって日々練習に励み、その成果を皆様にお聴きいただくことができました。

第2部は映画音楽の世界、第3部はポップスを中心としたステージで、お客様との距離感を近く感じられるステージは、奏者たちも達成感を感じながら光星高校らしいステージをお届けすることが出来ました。

最後に部員たちは、演奏会の企画や練習・本番を通して大きく成長することができ、自信へとつながる良い経験をすることができました。特に部長を始めとする3年生においては、技術的にも生活面でも大きく成長し、素晴らしい活動を展開してくれました。

本当に感謝しています。今後の活動も更に上を目指していけるよう新体制になっても部員一同多くのことにチャレンジし、ステップアップできるように努力していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。



光星高 祝 防衛大学校合格

本校では、5年ぶりに防衛大学校の合格者が出ました。

合格した菊池さんは、クラスの仲間や同じ防衛大学校を目指す八戸市内の高校生たちと切磋琢磨しながら受験準備に励み、たゆまぬ努力の末、見事に防衛大学校への道を切り拓きました。

また、陸上競走部に所属して優れた実績を残し、念願だったインターハイへの出場を果たすなど、文武両道を立派に成し遂げました。

防衛大学校入学後も更なる成長を遂げ、将来の国防を担う存在として一層力を高めてくれることを期待しています。



菊池 叶子さん(五戸中学校出身) 普通科特別進学コース/陸上競走部

八戸学院聖アンナ幼稚園

歴代のアルバム・写真に感嘆の声



10月19日(土)、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学の学園祭に合わせて『聖アンナの集い』を開催しました。

8号館の一室に、開設年度(1976年度)から昨年度(2023年度)までの卒業アルバムを一挙に並べ、系列幼稚園合同音楽会(現星の子シアター)の第1回開催から現存する写真パネルをすべて展示しました。

来場した卒業児や保護者は、感嘆の声を上げ「素晴ら

しいですね、歴史を感じます。」と写真パネルを見渡したり、ご自身や知人の方が写っている写真に思わず見入り、懐かしんでいました。また、中には「初期の頃に卒業したのですが、卒業アルバムの所在がはっきりせず、今日この場で偶然にも見ることができてとても嬉しいです。」という方もおり、聖アンナ幼稚園で繋がった方々とのご縁を、これからも大切にしていきたいと感じた一日でした。



多くの在園児も参加し、ビンゴゲームで世代を超えて楽しみました。

ステラ・フォーカス



箱庭療法という心理療法があることは、ご存じの方も多いでしょう。砂の入った箱の中にミニチュア玩具を好きなように並べて自分のイメージを表現するもので、箱の内側が青色に塗られているので、砂を掘って川や池をつくることもできます。八戸学院幼稚園では時折子どもたちがその用具を使って遊んでいますので、その様子を紹介します。

箱庭療法は英語では「砂遊び療法」(Sandplay Therapy)と言いますが、これを箱庭という名前前で日本に導入して発展させたのが、著名な心理学者の河合隼雄氏です。というのも、日本には元々箱の中に景色を作る「箱庭」という遊びが存在し、明治時代には庶民の間でかなり浸透していたそうです。

箱庭の良さは、砂に触れるのが気持ちよく、癒しの効果があること、ミニチュアによって想像力が刺激されること、技術が必要なく手軽に楽しく表現できることにあるでしょう。以前、短期大学幼児保育学科のゼミナール活動で学園祭に登場した子どもたちも箱庭で遊んでもらったところ、毎年大盛況でしたので、幼稚園でもぜひ行いたいと思えました。もちろん心理療法ではなく遊びとしての活動であり、箱も規格より大きく、複数の子どもが同時に遊べるようにしています。(ゼミの学生が作ってくれました)。

できれば日常の教育活動に気軽に取り入れたいのですが、用具を運んで準備するのが大変という難点があり、今は主に星の子祭などのイベントの際に実施しています。今年は6月30日に八戸市私立幼稚園協会の企画で行ったコードモホコテンにもブースを出し、一般の来場者にも楽しんでいただきました。箱庭遊びを行う際は、子どもが安心して表現できるように保育者が見守ることが大切ですが、イベントでは保護者の方も見守ってくださる



八戸学院幼稚園

『箱庭遊びの楽しみ』

『小さなお砂場で遊ぼう』

の良いなあと感じています。箱庭遊びで用いる砂は特別に細かくてサラサラしていますが、最近見かける「まとまる砂」を使うと、また違った面白さがあります。幼児が一人で使うのに適した小さいサイズの箱もあって、子どもが気持ちを落ち着けるのに使うこともできます。子どもにも大人にも魅力の大きいこの遊びの可能性がもっと広がってほしいと願っています。



星の子祭の箱庭コーナー



まとまる砂で、小学生の表現です



長い時間じっくりと遊んでいました

八戸学院第二しののめ幼稚園

親子で健康教室～自分の体を大切にしよう～

10月16日(水)、年長組の子どもたちと保護者を対象に健康教室が行われ、八戸学院大学別科助産専攻の学生から「プライベートパーツ」「男女の体の違い」「いいタッチわるいタッチ」について教えていただきました。



子どもたちにもわかりやすいよう学生も工夫し、パネルを使った説明や参加型にしたことで、真剣に話を聞いている様子が伺えました。

4月から小学生になる子どもたちは行動範囲が広くなり、一人で行動することが増えてきます。「いやだ」「にげる」「はなす」は子どもと大人の約束です。嫌なことがあった時は自分から発信できるよう、繰り返し一緒に考え、話し合うことの必要性を感じました。



八戸学院幼稚園

秋晴れの中での「りんご収穫体験会」

11月15日(金)、八戸市果樹振興会からのお招きで「りんご収穫体験」に出掛けました。この体験会は、りんごの消費拡大と農業への理解を深めることを目的に平成17年から行われているもので、今年で20回目になります。昨年で市内の幼稚園がすべて体験したため、今年から毎年抽選となり応募したところ、何と第1回の抽選で本園が選出されました。

りんご園に着くと、最初に園主の方から美味しいりんごの見分け方など、収穫の仕方について教えてもらいました。しっかりお話を聞いた後は早速りんご狩りを開始。大きく真っ赤に実ったりんごを品定めしながら、ひとり5個ずつ収穫しました。お家に持ち帰る1個を絵本袋に入れると、帰りのバスの中で見せ合っては「うわぁ、大きいね～」

「こっちの方が真っ赤だよー」などと盛り上がり、秋晴れのもと素敵なりんご収穫体験になりました。





「子ども基本法」の第一条は「この法律は、日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、…」という文言で始まっています。ここに挙げられている「児童の権利に関する条約」とは、1989年に国連総会において全会一致で採択・議決された「子どもの権利条約」のことです。

「子どもの権利条約」の趣旨は、「世界平和、戦争への反省」、「人権の保障」です。第一次および第二次世界大戦で多くの子どもたちが犠牲になったことを省み、人類は子どもたちに対して最善のものを与える義務を負わなければならないとの考えから、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められています。

「子どもの権利条約」全54条では、子どもも大人と同じ一人の独立した人格

として捉えるとともに、心身ともに未発達で成長の過程にある子どもには支援や保護が必要であるとして、保障されなければならない様々な権利、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利などが明記されています。

国連で採択された5年後の1994年には日本もこの条約を結んでいて、それから30年が経ちますが、「子ども基本法」が施行されました。子ども基本法の根底にある子どもの権利条約への理解を深め、子どもが健やかに育つ権利、差別を受けない権利、自分の意志が尊重される権利などが大人の都合で損なわれていないかということ、日々の生活の中において社会全体で常に考えていかなければならないと思っております。

はじめの100か月

「はじめの100か月」とは、お母さんのお腹の中での10か月と、生まれてからの90か月のことで、小学校1年生頃までのことを指します。子ども家庭庁が「幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョン」のキーワードとしてこの言葉を掲げています。「生涯にわたる幸福のために最も重要な時

期」が「はじめの100か月」であり、この時期には「愛着」の形成と豊かな「遊びと経験」が不可欠といわれています。

「愛着」は不安を感じたときに常に寄り添う身近な大人が居て安心を得るといふ経験の繰り返して培われ、それが世の中に対する信頼感に繋がります。「遊びと経験」は、多様な人や自然、絵本、出来事などとの出会いや関わりを経験することで、広い世の中での自分の存在価値を実感し自信をもって積極的に行動することに繋がります。

私が園長に就任して間もない時期に、現在、一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の理事長をされている安家周一先生の講演会に参加する機会がありました。乳幼児期の教育が如何に大切であるか、それを担う我々には大きな責任があるというお話の中で「最終学歴ではなく、最



初の学歴が大切である。乳幼児期の過ごし方がその後の人生に大きく影響する。」と話されました。

正に、「最初の学歴」は「はじめの100か月」を意味するものだと思います。その時期に、どの幼稚園で、またはこの保育園で、そして家庭で、如何にたっぷりの愛情を注がれ、どのように遊び、何を体験したのかが問われるのだと思います。

「最初の学歴」という言葉を大変印象深く受け留め、その時以来今でも私の心に残りつかりと刻まれています。「はじめの100か月」に深くかわる立場として、これからも、子どもたちが「はじめの100か月」をより良く過ごすために、「子どもたちにとって何が大切か」を最優先のこととして考えていかなければならないと思っております。



幼児教育の今、あれこれ…

学校法人光星学院 理事
八戸学院聖アンナ幼稚園 園長
山西 幸子

超少子化時代を迎えて

私が園長を務めている八戸学院聖アンナ幼稚園は園児数39名(11月末現在)の小さな幼稚園です。私が園長として就任したのは東日本大震災が起こった直後の平成23年(2011年)4月ですが、そのころと比較して今の園児数は半減しています。特に、この2〜3年の減少は著しいものがあり、我が園だけではなく近隣の幼稚園も軒並み同様の状況で、これは青森県内のみならず全国各地でも見られる傾向です。

我が園は法人内の4番目の幼稚園として、昭和51年(1976年)4月に開園しています。当時の日本は高度経済成長期を経て第2次ベビーブームの出生数が頂点を示すところで、幼児教育の重要性が広く社会に浸透し全国各地で幼稚園が設立されました。しかしながら、そのころから少しずつ出生数のグラフは下向きに転じ、およそ半世紀が過ぎようとしている今、日本は超少子化時代を迎えています。法人内をみても、昭和42年(1967年)に幼稚園が開設されて以来、昭和54年(1979年)には八戸市内に5園、野辺地町に1園の幼稚園がありましたが、平成19年(2007年)以降の統廃合を経て現在は、八戸市内に、八戸学院幼稚園、八戸学院第二の幼稚園、そして本園の3園となりました。

私が幼児教育に携わるようになって14年目になります。その間、子ども・子育て新制度の施行に伴い幼稚園および保育園の機能を有する認定こども園が制度化され、保育料無償化が実現し、子

ども家庭庁が発足するなど、幼児教育を取り巻く状況は目まぐるしく変化しました。さらに、家族のあり様にも多様な変化が見られ、両親共に就労している家庭も多くなってきています。平日の7時30分からの早朝預かり保育、18時を過ぎるの延長預かり保育、加えて土曜日の預かり保育などの「子育て支援」が全国の幼稚園で展開されています。

先頃、我が園の今年の出生数は70万人割れか?との報道がありました。100万人割れが大きく報道されて10年経たずしてこの数字はかなり深刻なものがあります。

私の園長としての経験は13年余といふ浅いものではありませんが、幼稚園を取り巻く状況の大きな変化を感じる一方で、「子どもの育ちは、世の中が如何に変化しようとも変わるものではない。」という思いは年々強くなってきています。そして、子どもの想いや子どもの健やかな成長のことよりも経済政策及び労働政策を重視しているように映る現状の「子育て支援」の在り方に危惧を抱くとともに、現状の「子育て支援」が少子化対策に功を奏しているとはとても思えないのです。

子どもたちの将来を見据えたとき、現状の「子育て支援」の方向性を見直し、ワークライフバランスのとれた生活への支援、子どもの育ちに焦点を当てた「子ども支援」へと転換し、子どもを育てることを負担と捉えるのではなく、子どもを育てる幸せ、子どもとともに成長する喜びを感じられる社会になることを切に願うのであります。

子どもの権利条約

令和5年4月1日に内閣総理大臣直属の機関として内閣府の外局にこども家庭庁が設立され、同日、「こども基本法」が施行されました。「こども基本法」の目的として「全てのこどもや若者が将来にわたって幸せな生活ができる社会の実現」と掲げられています。この基本法での「こども」とは年齢で区分するのではなく、「心と身体の発達過程にある者」と定義されています。新生児期、乳幼児期、学童期及び思春期の各段階を経て大人になるまで、子どもたちの健やかな成長への支援を切れ目なく取り組むことが、政府には義務付けられ、都道府県および市町村には努力義務として求められ





HACHINOHE GAKUIN CAMPUS SPOT

美保野キャンパス どんぐり拾い



緑豊かな美保野キャンパスには、大きなどんぐりの木があります。秋になると、たくさんのだんぐりを実らせ、実ったどんぐりが地面いっぱいになります。

この日は八戸学院幼稚園の園児たちが園外保育で美保野キャンパスを訪れ、八戸学院大学短期大学部幼児保育学科の学生と一緒にどんぐり拾いをしました。時々見つける帽子を被ったどんぐりに歓声をあげ、小さな手いっぱい溢れるほどのどんぐりを、嬉しそうに見せてくれました。

美保野キャンパス

